

研究内容：特別支援教育の研究

学校名：広島市立己斐上中学校

所在地：広島市西区己斐上六丁目452-4

H P : <http://www.koiue-j.edu.city.hiroshima.jp/>

学年：6学級 170名

1 取組の概要

(1) 取組の概要とねらい

平成24年度、25年度と2年間にわたり広島市教育委員会の「広島市特別支援教育推進校」の指定を受け、本年度、独自で3年目の取組を進めている。

本校は、開校28年目を迎えるが、数年前は問題行動等もあり、落ち着いて学習に取り組むことが難しい状況のみられ、自分に自信が持てず、自己肯定感も非常に低い状態であった。また、家庭学習を全くしないと答えた生徒は30%台で推移しており、授業では静かに座ってはいるが、理解度は高くない状況もあり、教育的配慮が必要な生徒も含め、在籍生徒の約1割に対して、個別の指導計画を作成し、それに基づき教育的支援を行っている。

学校で組織的な支援を行うために、取組の柱を「ユニバーサルデザインの視点による授業改善」、「全校で一貫した個別の支援」及び「言語環境の整備と言語活動の充実」の3つに定めた。これらの柱に沿って取組を行うことにより、一人一人を大切に授業づくりと生徒の基礎学力の向上を図ることが可能であると考えた。

(2) 研究の方向と校内支援体制

学校全体の取組として、まず「KU（己斐上中）デザインによる授業改善」を実施する中で教育的配慮が必要な生徒への個別の支援として、「巡回相談指導を活用した個別の支援の工夫・改善」を定め、取組の方向性を示し教職員の意識統一を図った。

また校内での支援体制としては、以下の各委員会等で推進を進めた。

- ① 特別支援教育推進委員会（毎週1回）
- ② 特別支援教育連絡会（随時、必要な時）
- ③ 巡回相談指導におけるケース会議（年間3回）
- ④ 校内授業研究会及び校内研修会等の開催

2 主な取組内容

(1) ユニバーサルデザインの視点による授業改善

- ① KUデザインチェックリスト（4領域「見通しをもたせる工夫」「指示・説明・発問の工夫」「視覚的な情報提示の工夫」「指導方法等の工夫」各領域4項目全16項目）による自己評価とその集計と活用。

KUデザインチェックリスト

1 見通しを持たせる工夫	かなりやっている	やっている	たまにやっている
① 時間どおりに始めて、時間どおりに終わる（見通し、心理的な安定）			
② 授業の「めあて」を示す（見通し、心理的な安定、目的理解）			

KUデザインの4領域16項目

KUデザイン4月重点取組

- 黒板の周りには必要な掲示物だけ貼る。
- 「授業のめあて」を示す。
- 黒板を分割する際は、縦にラインを入れる。
- 授業の「流れ」を示す。
- 活動の終わりの時間を視覚的に示す。（話し合い、写す等）

- ② 毎月のKUデザイン重点目標の設定。
- ③ KUデザインに基づいた分かりやすい授業の創造をテーマにした校内授業研修会の実施。
- ④ 実践事例集の作成。

(2) 全校で一貫した個別の支援

- ① 聞く、話す、読む、書く、考える等の領域における「個別の支援内容モデル」を作成し、必要な個別の支援を精選するために、特別支援教育アシスタントが中心に、支援回数、生徒の反応や気づき等を記録し、推進委員会で集約する。

個別の支援内容モデル

領域	生徒の様子	考えられる原因、目的	支援
書く	黒板を写すことが難しい	集中していない	写すように促す
書く	黒板を写すことが難しい	視覚的な短期記憶が弱い	黒板を写した紙を渡して近くで見ることができるようにする
書く	黒板を写すことが難しい	漢字を覚えていない 形の認識の力が弱い	難しい漢字を手元で書く
⋮			
聞く	指示の内容が分かっていない	指示の言葉が理解できない	分かり易い言葉に置き換えて、指示や説明を短く、ゆっくり、具体的に説明する
聞く	指示の内容が分かっていない	複数の指示の記憶が難しい	一つの行動が終わってから次の指示を出す

- ② 支援回数の記録をデータ化し、必要な支援内容を共有することでの指導法の工夫改善を行う。
- ③ 授業における「配慮事項や支援等の一覧表」を作成し、研修会等で共有化する。

(3) 言語環境の整備と言語活動の充実

- ① 言語環境の整備
 - ア 授業等において、手本としての教師による正しいことばの使用や好ましい人間関係の形成を図る。
 - イ 思考、判断、表現することができる生徒の育成を目指すために、教科の特性を生かした小グループでの活動を定期的実施する。
- ② 言語活動の充実
 - ア 各教科の授業において、「思考の視点」や「表現モデル」の提示等を取り入れ、言語活動をより充実した授業実践を行う。

3 実践事例

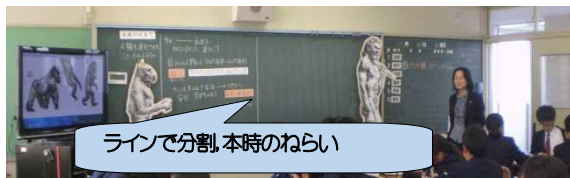
(1) KUデザインを活用した授業実践

- ① 見通しをもたせるための工夫
 - ア 活動内容は、見てすぐ分かるように示す。
 - イ 授業の中で、見通しをもって活動が行えるように、「本時の流れ」と単元の最終目的を示している。
 - ウ 授業のねらいは全員で声を揃えて読ませる。また、本時のポイントになる項目に○印をつけ、「今日は△△が分かれば素晴らしい。」等と授業のゴールを示す。 **【流れ】【見通し】**
 - エ 作業手順が複数ある場合は、「今から○○をします」「やることは3つあります」と予告して、簡

イ 手遊び、鉛筆いじり等で集中力に欠ける生徒もいるので、筆箱禁止にし、鉛筆等を輪ゴムでまとめさせる。【注意の選択・集中】【授業のきまり】

③ 視覚的な情報提示の工夫

- ア 黒板は縦ラインですっきりとさせる。
- イ 項目ごとに黒板に縦のラインを引き、黒板を分割して使用している。【視覚的な支援】【黒板分割】



(2) 言語活動の充実による授業実践

① 「思考の視点」の提示の工夫

ねらい：文章で筆者が述べていることを要約する。
単に、「要約＝物事を中心となる大切な点をまとめること」という説明では、何かからとりかかれればよいかわりにくいので、要約するための手順を示すことによって、何かから順番に考えればよいか分かります。最終的に要約が完成するようにした。

◆ 要約の手順

- ① 文章全体を三つのまとまりに分ける
(序論・本論・結論)
- ② 本論を話題ごとのまとまりに分ける
各まとまりの中心段落を見つける
- ③ ②を二行以内でまとめる
(要点)
- ④ ④の要点をつなげる
- ⑤ ※ 題名・接続する語句に着目する

② 「表現モデル」の提示の工夫

ねらい：文章の特徴を明らかにするために、二つの文章や構成表を比較して、その相違点について根拠を明確に示して説明する。
提示した表現モデルを参考にすることで、両者の比較、根拠、自分の考え(相違点だと思ふこと)の3点を整理し、相手に分かりやすく説明することができた。

・ Aは「」があるが
Bには無い。
・ Aには無いが、Bには「」がある。

4 取組の成果

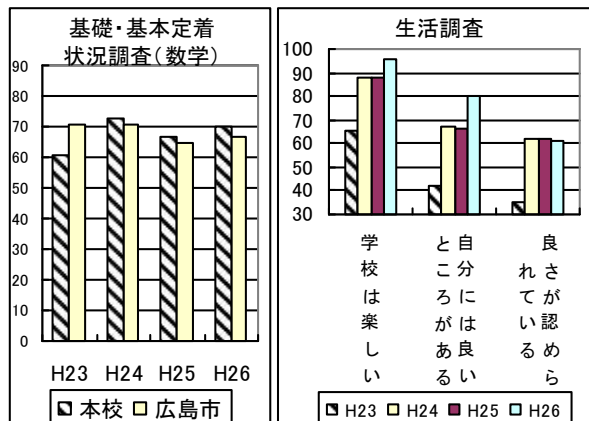
(1) ユニバーサルデザインの視点による授業改善

- ① KUデザインチェックリストの定期的な実施により各項目における数値の変化が視覚化され、次に取り組むべき視点が明確化した。
- ② 全校で統一した「月間重点目標」を設定することで教員の意識の統一が図られた。
- ③ 自らの実践の振り返りと整理を行うことで、授業に対する意識が変容した。
- ④ 実践事例集の作成、それを活用した校内研修会の実施により、授業改善の情報の共有化と意識化が進んだ。

(2) 授業改善による基礎学力の向上について

- ① 平成23年度以前と取組後の平成24年度以降の基礎・基本定着状況調査等の結果を比較すると、広島市と本校の平均通過率の差は縮まり、教科によっては、本校が広島市の平均通過率を上回る状況も見られた。
- ② 生活調査からも、「学校は楽しい」「自分には良いところがある」「自分の息子は思っているより頑張っている」と答えた生徒は増加している。

③ 家庭学習の時間についても「家庭で勉強は全くしない」と答えた生徒は0%となり、「家庭で勉強を1時間以上している」と答えた生徒は増加している。



(3) 全校で一貫した個別の支援について

- ① 「個別の支援の内容モデル」を作成し、特別支援教育アシスタントが中心に活用し、各項目の支援回数等を集約し全教員で確認したことで、支援の方向性の整理ができ、効果的な支援につながった。
- ② 教科の枠を超えて、全教員がそれぞれの立場で個々の生徒への支援を「配慮事項及び支援等の一覧表」に加筆することで、生徒一人一人に応じた、より具体的な支援の方向性や傾向が共有できた。
- ③ 授業進度や説明の内容等の個別の声かけ(「今はここだよ。」「説明の意味はこうだよ。)」により、教師の指示が理解しにくい生徒の、反応時間短縮につながり、作業や思考が滑らかに進めるようになった。

(4) 言語活動の充実について

- ① 授業や様々な活動を通して、安心して話ができるような小グループを編成し、活用することで、お互いのコミュニケーションが円滑になった。
- ② 各教科で「思考の視点」や「表現モデル」を示すことで、より生徒が自分の考え等を発表しやすくなった。

5 課題と今後の方向性

【課題】

- (1) 各教科における「思考・判断・表現力」を育成するための話し合いや共同学習のスタイルはある程度できたが、より充実させるための指示の出し方や発問の質の向上等が不十分である。
- (2) 年度毎の取組目標と方針を特別支援教育推進委員会で意識統一し、KUデザインの取り組みを継続してきたが、生徒の実態や教職員の構成は毎年異なる。そのために、KUデザインについての基礎的研修を深めると共に、生徒一人一人の教育的ニーズを把握することが必要である。

【今後の方向性】

- (1) 個別支援の充実の継続はもちろん、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるための、指導内容や支援の工夫改善、発問の質の向上等について再度検証していく。
- (2) 現在は、月間重点目標を設定して全校で統一して取り組んでいるが、今後は、学年の実態に応じて、重点的に取り組む内容を変えていくことも検討したい。